

学習指導要領に示された本題材に関わる目標及び内容等

1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭，衣食住，消費や環境などについて，日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなど，課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み，家族や地域の人々との関わりを考え，家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

2 内容

C 消費生活・環境

次の(1)及び(2)の項目について，課題をもって，持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え，工夫する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 物や金銭の使い方と買物

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり，物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。

(イ) 身近な物の選び方，買い方を理解し，購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること。

イ 購入に必要な情報を活用し，身近な物の選び方，買い方を考え，工夫すること。

1 題材 「まかせて わたしは買物名人」について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

消費生活についての問題点を解決するために、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて、自分の物や金銭の使い方や買物の仕方について見つめながら、よりよい消費生活について考える。そして、考えた、どのように物や金銭を使うかや何を選ぶかとその理由について意見を交流する活動を通して、さらに考えを深め、消費生活をよりよくしようと工夫し続けている。

買物は生活を営む上でなくてはならないものであることを知った子供たちは、必要ない物を購入してしまった等の買物で失敗した経験を話し合う中で、自分たちの消費生活には問題点があることに気付く。その問題点を解決するために、持続可能な社会の構築等の視点で身近な買物を見つめ、自分の欲しい物について本当に必要かどうかなど限りある物や金銭を生かした計画的な使い方や目的に合った品質の良い物を選んで購入するための買物の仕方を考える。そして、どのように物や金銭を使うか、何を選ぶかとその理由を話し合う。例えば、「私は筆箱が欲しい。今の筆箱は汚れてしまったから買い換えたい」「汚れているところは、一回洗って見たらどうかな。きれいになってまだ使えると思うよ」と交流を通して新しい物を購入する以外の方法にも気付いていく。また、「僕は、調理実習で使うみそは、値段が安くて量もたくさん入っているからAのみそがいいと思う」や「確かにAの方が安いけれど、そんなにたくさん必要な。私は有機JASマークがついていて健康に良さそうだから、Bのみその方がいいと思うよ」などと話し合う中で、広告や商品につけられた日付や原材料などの表示やマーク等から値段や分量、品質、環境への配慮等の情報を収集・整理して、目的に合った品質のよい物を選択することができるようになっていく。そうして、「調理実習で使うときには、必要な量を確認しておく必要があるね」などと必要な分量を意識し、用途や目的に合った食品の選ぶ際に、多様な観点で比較して検討することが必要であることに実感し、消費生活についての考えを深めていく。身の回りの他の商品や消費生活についても視野を広げ、「家でみそ汁を作るときには、家にある物をうまく使って、必要な物だけ買う計画をしよう」などとよりよい消費生活に向けて工夫を続けていくのである。

(2) 子供の実態

メタ認知に関する実態調査や教師の見取りから、授業で自分の考えと比べながら友達の考えを聞いていないと答えた子供が34名中10名いることが分かった。この10名は、教科に関する実態調査によると「分からないことがあったら友達に尋ねる」と答えており、友達の考えを聞こうとしてはいるが、自分の考えとの違いを比較するという意識が低いことが考えられる。教科に関する実態調査によると家庭科の授業で学んだことを生活に生かすことができている子供は34名中8名いることが分かった。また、34名中25名は「買ったけど使わなかった」など買物で失敗した経験があると答えている。個の気質として、「話すことと書くことどちらが好きですか」という問いに話すことが好きだと答えた子供が20名、書くことが好きだと答えた子供が14名いる。話すことが好きな子供のうち13名は書くことは苦手だと感じている。

(3) メタ認知を促す働きかけ及び個の気質に応じた支援

① 課題設定以前【買物名人への道】

題材の初めに、子供たちと「買物名人になろう」という目標を設定し、学習計画を立てる。その学習計画の中にこれまでに解決した課題と、学びや今後の生活に生かしたいことを位置付けておき、前時までの学びを振り返りやすくしておく(2~7時間目)。本時はなぜ、その課題を解決しようと思ったのかを問いかけ、補助黒板を基に学習計画に対する進捗を説明させることで、課題設定の理由を明確にもてるようにする。また、本題材と関わりの深いみそについて情報をまとめた掲示をしておく。

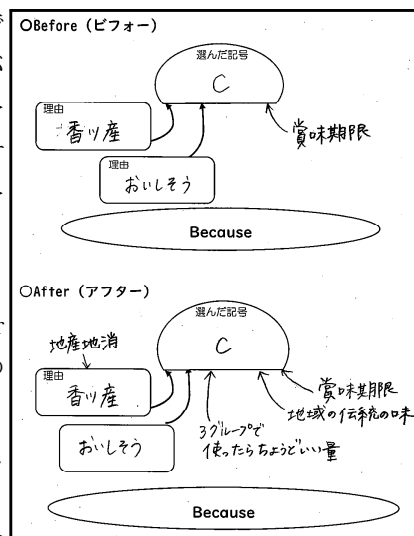
② 課題解決中【Becauseシート&タイム】

自分の考えの理由を明らかにして、説明するためにBecauseシートを用いる。そして、自分の考えをも

った後、グループでシートを見せ合いながら交流するBecauseタイムを設定する（3～5・7時間目）。本時はBecauseシートに選んだ商品とその理由を前時見付けた観点について色分けしたキーワードのシールを貼ったり、新たに見つけたことは自分で書いたりして、それを見せ合いながら交流する。そうすることで、理由が視覚化され、聞いている子供は相手の選んだ商品とその理由を自分の考えと比較し、商品の選び方を再考しやすくなる。書くことに苦手意識のある子供はシールで貼る活動にすることで自分の考えを表しやすくする。また話すことが得意な子供が取り組みやすいように、Becauseタイムで友達に考えを伝えることで考えを明確にした後に、書いてもよいことを共通理解する。書くことが得意な子供は、Becauseシートに書いて自分の考えを整理した後で、シートを見せながら友達に伝えることができる。

③ 課題解決後【BeforeAfterタイム】

Becauseシートには、交流前の考えをBefore、交流後の考えをAfterとして、課題解決中に書いておく。シートを見て、授業前後の自分の考えを比べ、「変わった考えとその理由」の観点での振り返りを行う。全体交流では自分の考えや共感した友達の考えを共有して学び方のよさを実感できるようにしたい。学びを抽象化して「買物名人への道」に位置付けてから、「生活に生かしたいこと」の観点での振り返りを行う。子供から出た具体的な意見から学びを抽象化し価値付けること



【Becauseシート】

で、学んだことが生活と結び付きにくい子供が生活の場とつないで考えることができるようにする（2・4・5・7時間目）。本時学んだ、商品を選ぶ際に比較する情報について、「3グループで一緒に使う」などは「必要な量を考える」「リフューズ」など汎用できる言葉に置き換えて、「買物名人への道」に位置付けた後、「生活に生かしたいこと」を振り返る。

2 題材計画（総時数 7時間）

本題材と「ご飯とみそ汁」の題材とを関連させながら学習を進める。第二次で実際に調理実習で使う加工食品であるみそを選ぶ活動を行う。第三次では、実際にスーパーマーケットで食品を購入し、調理実習を行った後に、買物について振り返りを行う。本題材での学びを生かす実践的な場を設定することで、学びを生活とつなぎ、実生活で活用する力を養いたい。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
一	<p>① お金の使い方を見つめよう</p> <p>これまでの自分の消費生活を振り返り、成功や失敗した経験を話し合うことで、「買物名人になろう」と目標を設定する。物や金銭を計画的に使ったり、目的に合った品質のよい物を選んで買ったりできる「買物名人」になるための題材の計画を立てる。</p>
	<p>②③ 買物名人になるための方法を考えよう</p> <p>身近な買物では、どの場面で売買契約が成立しているのか知る。消費者として買う前や買う時に気を付けることを話し合い、物や金銭の使い方や買物の仕方をまとめる。考えた買物の仕方を使って、購入した経験の多いノートや調理実習で実際に使うみその買い方を考えようと意欲をもつ。</p>
	<p>④ ノートを比べて選ぼう</p> <p>ノートの表示やマークから、値段や品質、環境への配慮などの情報を集めて整理し、自分ならどれを選ぶか、選んだ商品とその理由を話し合うことで、商品と比較するための情報がいろいろあることに気付く。</p>
二	<p>⑤ 商品から情報を集めて、みそを選ぼう (本時5/7)</p> <p>班ごとの調理実習で使うという目的をもって、みそを選び、グループで意思決定を行う。話し合いを通して、食品ならではの視点があることに気付き、目的に合った物を吟味する。</p>
	<p>⑥⑦ みそ汁の材料の買物をしよう</p> <p>実際にスーパーマーケットでみそ汁の材料を購入する。調理実習後に、買物について振り返り、「買物名人への道」に新たに見付けた「味」などの視点を加える。家庭で作るみそ汁の材料の買物について計画を立てる。</p>
三	

3 本時について

目 標	4種類の中から調理実習で使うみそを選び、選んだみそとその理由を話し合う活動を通して、商品を選ぶ際の様々な情報を比較検討し、目的に合ったよりよい選び方ができる。
--------	---

学習活動	子供の意識				
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【買物名人への道】	<p>前の時間は、学校で使うノートの買い方について考えたよ。</p> <p>私は、値段だけでなく、使いやすさの視点でノートを選んだよ。</p> <p>僕はやる気を出すためにデザインが好みのノートを選んだよ。</p> <p>調理実習では自分たちで買物をするのだったね。食べ物でもノートと同じようにいろいろな情報を比べて選びたいな。</p>			
	商品から情報を集めてみそを選ぼう				
課題解決中	2 自分が選んだみそとその理由を話し合い、使いたいみそを決める。 【Becauseシート&タイム】 (1)自分で (2)グループで (3)全体で	みそのパッケージには、たくさんの情報が書かれているね。調理実習で使うためには何を大切に選んだらいいかな。			
		私は安くておいしいみそ汁を作りたいな。Aのみそは宣伝を見たことがあるし、おいしそうだよ。値段も一番安いよ。	僕は健康によいみそ汁を作りたいからBのみそを選んだよ。国産大豆で無添加と書いているから健康に良さそうだからだよ。	私は、香川県らしいみそ汁を作りたいからCのみそがいいな。香川で作られていて地産地消につながるし、食べてみたいよ。	僕はエコクッキングでみそ汁を作りたいからDのみそがいいと思う。1班で60g必要だから量が一番少ないDにするよ。
		Aのみそも減塩と書いてあって健康にも良さそうだ。有機JASマークはどんな意味かな。	なるほどAが一番安いね。値段を比べるときに、100gの値段を計算したんだね。Bはいくらになるの。	確かに使う量を考えたら、Dのみそは余る量が少ないね。どのみそも、グループで使うには量が多いね。	地産地消は環境にいいね。他のグループと一緒に使ったら、量が多いみそでも使いきれそうだ。
		やっぱりAがいいな。	健康を考えてやっぱりBがいい。	Cのみそにしたい。他のグループと一緒に使えないか聞いてみよう。	
		同じみそを選んだ人とグループを作ろう。余ったら、持って帰ろう。		4つのグループで使ったら、たくさん余らないから一緒に使おう。	
		みんなで話し合って、使いたいみそが決まったよ。			
課題解決後	3 本時の学習を振り返る。 【BeforeAfterタイム】	友達と話し合ったし、実物を見たから、健康に良いという視点が増えた。	友達と話し合ったから、必要な量を考えるという視点が増えたよ。		
	目的に合わせたり、必要な量を考えたりして買うことが大切だね。余ったら期限内に使いきれないように工夫しよう。ノートの時と違って健康という視点も大切だと分かったよ。				
	家でみそ汁を作るときは、家族のために健康の視点で買物をしたいな。	消費期限が短いものは余らないように買物したいな。			

評価	話し合いを通して気付いた情報を比べて、根拠をもって目的に合ったみそを選び、これからの生活においても工夫して買物をしようとしている。 【方法：発言・様相・記述】
----	---